

令和元年11月22日

軽井沢町議会

議長 佐藤 敏明 様

議会活性化特別委員会

委員長 寺田 和佳子

## 令和元年 軽井沢町議会活性化特別委員会視察報告書

### 1 視察日程

令和元年10月3日（木）～4日（金）

### 2 視察先及び目的

#### (1) 長野県 安曇野市議会

①中学生議会の取り組みについて

#### (2) 長野県 箕輪町議会

①中学生模擬議会について

#### (3) 愛知県安城市議会

①議会ICT化の取り組みについて

### 3 視察参加者

委員長 寺田 和佳子

副委員長 押金 洋仁

委員 福本 修

委員 赤井 信夫

委員 遠山 隆雄

委員 川島 さゆり

委員 土屋 好生

議長 佐藤 敏明

随 行 荒井 和彦（議会事務局長）

随 行 内堀 英希（議会事務局）

#### 4 視察報告

(1) 長野県安曇野市 — 令和元年10月3日(木) —

##### 安曇野市の概要

- 平成17年10月1日に、豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町の5町村が合併。
- 人口 97,610人 (R1年8月)
- 市内に7中学校

##### ◎視察目的

中学生議会の取り組みについて

##### ◎視察内容 (ヒアリング内容)

説明者 安曇野市 学校教育課課長	平林 洋一
学校教育課教育指導室教育指導員	清澤 栄三
議会事務局次長	細田 昌伸

##### ◎取り組み内容について

###### 目的

平成25年度から「まちづくり支援課」が企画、生活の多様化に伴う市民と行政がそれぞれの役割を果たしていく協働のまちづくり推進のため、小さい頃から主権者教育を進めていくことを目的に中学生議会を発足させた。

発足当時から協力という形で教育委員会も関わってきたが、現在は教育委員会が所管している。

###### 対象者

中学生 2年生

理由：中学生の進学先が50高校ほどあり、なおかつ市内に4つの高校があることから選考が難しいので中学生とした。また、公民の授業は3年生であるが学校行事等多忙のため2年生を対象とした。

###### スケジュール

- 4月 各中学校で中学生議員3名及び担当教員の選出
- 5月 市各部局で1課題の設定及び担当職員の選出  
中学生議員に希望をとり担当課題の調整  
担当教員連絡会
- 6月 リサーチタイム打ち合わせ会・・・学校担当教員等に概要説明
- 7月 リサーチオリエンテーション・・・中学生議員等に概要説明・議場

- 見学・リサーチ活動計画立案
- 8月 リサーチタイム（これがメイン）・・・提案型質問書作成のための  
リサーチ学習
- 9月 担当教員連絡会  
提案型質問書完成
- 10月 市担当部局で答弁書完成・議会準備  
議場でのリハーサル
- 11月 中学生議会開催
- 12月 まとめ（感想・反省）・校内報告会等

#### 質問及び答弁の方法

1つの質問を中学生議員3名で行い、①課題②提言③お礼の3構成とし、  
持ち時間8分で1人原稿用紙2枚の質問を行う。

答弁は市長・教育長及び担当部長が行い、答弁を含め2・3分とする。

#### その他

中学生議会の議事録が安曇野市ホームページで公開されている。

中学生議会での質問をきっかけに「美術館・博物館」パスポート事業が開始された。

#### ◎考察

安曇野市は平成17年10月1日に、対等な町村合併により誕生した新しい市である。そのため、それぞれの地域課題が違うこと、多様化する市民生活やニーズに対応するため、行政が中学生目線による斬新な発想やアイデアを積極的に生かそうと中学生議会を開催、以後継続し7年経過し恒例の行事となった。

厳しいスケジュールの中、授業としての位置づけではなく、学校によっては自由時間でやっており学校に負担をかけたくない思いがあるものの、現実的には担当教員に相当の負担があると感じた。

なお、今年度からは市の執行部の各部局が質問課題を提案し、その中から各学校が質問事項を選び、その後、市の担当職員が中学生議員に課題に対する情報提供等ヒアリングしているため、中学生目線の質問になっているか疑問に感じた。

しかしながら、模擬議会ではあるものの市長・教育長及び部長が答弁者となり、なおかつ市総合計画基本方針や協働のまち作りに基づく総合計画に各部局の課題として活かしたいなど、中学生目線による斬新な発想やアイデアを行政側が積極的に生かそうとする姿勢を感じた。

(2) 長野県箕輪町 — 令和元年10月3日(木) —

箕輪町の概要

- 長野県伊那谷の北部に位置し県内で最も人口の多い町。
- 人口 25,062人 (R1年8月)
- 町内に中学校1校(1学年7クラス)及び高校1校

◎視察目的

中学生模擬議会について

◎視察内容(ヒアリング内容)

説明者 箕輪町議会議長	中澤 清明
議会活動活性化委員長	入杉 百合子
議会事務局長	田中 克彦

◎取り組み内容について

目的

より身近な議会、開かれた議会を目指し町の将来を担う中学生から生徒の視点で地域の問題や将来について町政への意見や提言を聴くことにより、議会の活性化を図ることを目的とする。

議会は、中学生の意見、提言を尊重し今後の議会運営、政策提言の参考としている。

経過

昭和63年中学校記念行事として開催。その後、19～21年度・24年度以降議会活性化の一環で開催。

対象者

中学生 2年生

理由：地域で生まれ育った子どもたちを対象としたいという思いから、町内に1校ある高校は町外の生徒が多いので対象から外した。議会や行政としては2月中旬開催を希望したので、受験生である中学3年ではなく、中学2年生とした。

議会の関わり

前日のリハーサルのみで議員と中学生の打ち合わせはない。

議員は傍聴席で傍聴していたが、平成28年度からは議場内で困ったことがあればサポートするため議場に待機している。

### 質問時間及び答弁の方法

質問する議員数は10～11人で質問時間は1人4分とし、答弁は町長・教育長で1人5分を目安に1問当たり10分としている。

なお、開催時間は平日午後3時30分から午後5時30分までの2時間。

### その他

模擬議会を町ケーブルテレビでライブ中継及び録画放送をしている。

中学生議会の開催は2月で2年生は期末テストや修学旅行で大変な時期であるが学校側の理解で実施している。

参加した生徒のその後や進路について、過去にアンケートをとったこともあるが生徒に負担がかかることから現在は実施していない。

生徒からの提言で部活のある日は、朝の部活に間に合うようダイヤ改正し、一便増便した。(月曜日は部活がない)

### ◎考察

箕輪町の中学生模擬議会は議会が開催しているものの、前日のリハーサル及び当日の議場内でのサポートにとどまっていた。

「ふるさと箕輪学」の中から質問事項をクラス単位で考え、作成していることから担任の先生は大変であると感じた。

しかし、模擬議会ではあるものの町長・教育長が答弁者となり、質問内容によっては実施されている事業もあり行政が積極的に対応していると感じた。

なお、第1回の記念行事として開催した中学生議会を傍聴した当時の中学生がその時抱いた志を持ち続けて現在議員になっていることに感銘を受けた。

模擬議会の目的として「より身近な議会、開かれた議会を目指し町の将来を担う生徒の視点で地域の問題や将来について町政への意見や提言を聴くことにより、今後の議会運営、政策提言の参考に議会の活性化を図る」としているのであれば、模擬議会ではなく中学生との懇談会等で良いのではないかと感じた。

(3) 愛知県安城市議会 — 令和元年10月4日(金)

安城市の概要

○人口 189,331 人(平成31年4月1日現在) 面積 86.05 km<sup>2</sup>

安城市議会

○定数 28 人

特別委員会 3 つ : 戦略的モビリティマネジメント 9 人、  
未来型施設整備研究 10 人

◎視察目的

議会 ICT 化の取り組みについて

◎視察内容(ヒアリング内容)

説明者 安城市議会 総務企画常任委員会 委員長 深津 修

○安城市議会の議会改革への歩み

<経過の概要>

平成19年度 4月:一般質問の一問一答方式導入

平成20年度 6月:代表質問、一般質問のインターネット録画中継開始

平成21年度 3月:議会改革検討委員会にて議員定数削減の議論

次期選挙では現在の議員定数が適正であるとの結論に至る

平成22年度 7月:市議会で市民アンケートを実施、アンケート結果を公開、アンケート結果から、議会の見える化と議会改革を進める事を合意し  
確認

市民アンケート

「市議会は市民に開かれているか?」の問いに「開かれている」と答えた市民が15%  
(そもそも議会 ICT 化はペーパーレス化が目的ではなく、アンケート結果が要因)

ここから、議会の見える化が必要不可欠に

議会の見える化がスタート

平成23年度 6月:議会基本条例策定特別委員会の立ち上げ

平成24年度 9月:各会派にノート PC を配布(3人に1台)

平成25年度 11月:議会報告会試行を実施

平成26年度 6月:議会 ICT 化の議論を議会改革検討委員会で開始  
議会基本条例、議会議員倫理条例制定

平成27年度 4月:議員定数を30人から28人へ

5月:FAXを廃止し電子メールに移行

- 6月：議会ICT推進PT（6人）立ち上げ、議論を開始（月に1、2回）
- 11月：安城市議会ICT推進基本計画を承認し決定  
（議会ICT推進PT中心→議会改革検討委員会で承認）
- 2月：全協よりタブレット端末導入

導入にあたり基本的な考え（ANJO）ーを目標とする

A c t i v e：効率化・活性化など議会改革を積極的に推進する

N e x t：ICTを積極的に活用した新たな議会運営を行う

J o i n：議会への市民参加と感心の向上を図る

O p e n：議会情報を分かり易く市民に公開する

- 平成28年度 1月：電子スケジュール・掲示板の運用開始
- 2月：全協でペーパーレス化会議を試行・情報通信機器使用基準施行
- 3月：定例会後、議員アンケート実施、活用度と不明な点とる
- 4月：スマホ、タブレット端末への議会録画中継の配信
- 5月：議会のペーパーレス化を進める（紙の配布9人）
- 6月：定例会前、紙ベースの議案書は各会派原則1部ずつ、議場では全議員タブレット活用
- 8月：議場、委員会室等のWi-Fi化を実施
- 9月：インターネットライブ中継の実施

《平成31年度～さらなるICT化推進のために、第2次ICT推進基本計画に取り組み中》

《導入前・導入後について》

- ・若手のSNSに強い議員でPT立ち上げ（6人→座長1人、副座長1人、16人会派から2人、3人会派から1人、諸派1人）まずは体制作りがメイン。
- ・ICT化に対する議員の意識調査実施（71%が進めるべき、7%慎重に進めるべき）
- ・執行部との意見交換、推進体制の検討  
議会ICT化は議会単独か執行部との協業か探ったが、議会との温度差あり執行部からは前向きな回答はなく、議会単独でICT化へシフト  
議会単独でICT推進基本計画策定へ
- ・議会の意思統一をし、タブレットに不慣れな議員への配慮を行ったうえで、全議員の足並みを揃え、丁寧なICT化推進（定例会前に毎回全議員にタブレット利用講習会開催等）

<費用対効果>

ランニングコスト313万円（システム利用料、タブレットレンタル費等）

効果金額 535 万円（人件費、印刷製本費、FAX 廃止等）

平成 29 年度実績で 222 万円削減（議員 1 人当たり 1 年間で約 1 万枚資料）

#### <システム構成・導入機器・費用の検討>

##### ①グループウェア

・電子スケジュール・電子掲示板・メール等→国内シェアNo.1 のサイボウズに決定

##### ②電子会議システム

・富士ソフト MoreNote・東京インタープレイ SideBooks の 2 つに絞り、比較検討実施。機能・操作性・セキュリティ・保守サポート等について比較検討を実施し、操作性重視で Sidebooks に決定。

##### ③タブレット端末

・タブレットの種類・画面サイズ・端末の統一・導入方法・買い取りか否かの検討をした結果、機種を統一し、I p a d P r o に。画面サイズは A 4 資料がそのままイメージできる 12.9 インチ採用。（予算書で昨年度と今年度の対比や見開きページも可能）

・費用負担については、検討した結果、公費 2,500 円、政務活動費（通信費）2,000 円、私費負担 0 円

（理由）

1. 買い取りだと市の資産となり市のセキュリティポリシーに準じる必要がある
2. 庁舎外に持ち出せない・故障修理 0 円・紛失 2 回まで 0 円対応
3. データ定額 3 年 3 ヶ月のレンタルプランで税込み 4,162 円 (4,500 円) SoftBank

##### ④Wi-Fi 環境整備（議場・委員会室）

・携帯電話キャリアと Wi-Fi 環境でネットワークの冗長化

##### ⑤ICT 利用規約等ルール化

- ・タブレットを持ち出し、議員活動を行う事が前提
- ・必要最低限のルールを取り決め
- ・市民への説明は自己責任で行う

※安城市議会の情報通信機器使用基準を策定

#### <タブレット活用の電子採決システムの導入>

- ・分かりやすい議会運営とよりリアルな情報発信（採決の個人表示、L I V E 中継）
- ・議会事務局の事務的作業削減（議員個人の賛否のエクセル表への自動生成）
- ・電子採決システム導入コスト低減

#### <議会ホームページのリニューアル>

- ・リニューアル後アクセス数が 2.2 倍に増加（平成 29 年度 12 月アンケートでウェブサイト・キッズページ・操作性・キャッチコピー等市民に好評）

#### <今後の課題>



- ・ペーパーレス会議システムの使い勝手の向上
- ・利便性とペーパーレス化のバランスの追求
- ・定期的なフォローアップ講習の実施
- ・議員主導でのICT化推進（若手議員による推進とベテラン議員の理解）
- ・ICTが苦手な議員をターゲットにした推進体制
- ・ペーパーレス会議だけにフォーカスせずICT化のメリットを全体的に検討する
- ・無理に紙資料を電子化データに完全移行しない

## ◎考察

安城市議会ICT化の歩みをうかがう中で、石橋を叩くように慎重に進めた経緯や定数問題時に市民アンケートを実施し、その結果が議会改革の原点になった理由が分かった。

機械が苦手な議員も仲間として1人も取り残さず、足並みを揃えて丁寧に取り組んだ様子をお聞きし、苦勞がうかがえた。

執行部側とも何回も意見交換し、その結果議会単独で導入が始まったとの事だが、始めたら決して後戻り出来ないとの言葉に、本気の覚悟がなければ導入は出来ないと感じた。

当町議会もICTに長けた議員が入ったことにより、ようやくプロジェクトチームが立ち上がり動き出しはしたが、まっさらな状態である。ICT導入にあたり議員間でとことん必要性や情報リテラシーに関して話し合うこと・行政や町民への説明責任を丁寧にしていくことがいかに大切かということ学べたのは、この段階で安城市を訪れたことができた最大の成果であると考えます。

導入当時の立役者である議員は既に議会にはいなかったが、当時のPTメンバーである委員長からは、現場での苦慮やリーダーシップ等、具体的且つ明瞭な説明があった。

紙に印刷された重い書類を持つのではなく、会議で使うデータが全てタブレットに入っており、検索で瞬時にそのページに飛び、スムーズ且つデータ量的にも利便性がある事が分った。実際に触らせて頂いたお陰で全委員が実感できた事は、大きな収穫だったと思う。

導入にあたっては、まずはPTの中で（スケジュール・掲示板等）何が出来るか模索し、議会活性化特別委員会でする事を具体的に進める事が肝要である。

今後、議会の経費削減、事務局の業務軽減の為に、焦ることなくしっかりと地に足をつけて調査研究していきたい。